

子どもの遊び場づくりから、互いに気にかける

地域づくりへの広がり

〜一般社団法人プレーワーカーズの取組〜



▲「子どもの居場所〇〇」の庭で遊んでいる様子

誰でも遊びに来ることができる場所

宮城県名取市にある「子どもの居場所〇〇（まるまる）」（以下、「〇〇」という。）は、年齢や学区に関係なく誰でも来ることができる、家の中や庭で自由に遊ぶことができる場所です。事前の登録や申込みは必要なく、着替えが用意されているため、子ども達は服の汚れを気にせずに遊ぶことができます。運営しているのは「一般社団法人プレーワーカーズ」以下、「プレーワーカーズ」という。です。「プレーワーカーズ」では、子どもにとっての遊びは単なる余暇ではなく、食べることや寝ることと同じように生きるために必要なことと考え、「〇〇」の運営のほか、車に遊び道具を詰め込んだ「プレーカー」で各地へ遊び場を届ける活動などに取り組んでいます。

「〇〇」の特徴の1つとして挙げられるのが、子どもだけではなく大人も利用することができるということ。このことについて、「プレーワーカーズ」の代表理事である須永力さんは、「社会には子どもから高齢者までいるのが当たり前。子どもの居場所だからと言って、子どもしか来ることができな

いのはすごく不自然」と話します。実際に遊びに来るのは小学校高学年から中学生までの

子が多いとのことですが、プレーワーカーズでは「〇〇」を誰でも利用できる場所にしたいという思いから、「0歳〜200歳までの人が遊べる場所」として運営しています。

触れ合いから生まれる理解

須永さんには、子どもの遊び場づくりなどの活動について、「子どもだけではなく、様々な人が集える場所にする



▲一般社団法人プレーワーカーズ代表理事の須永力さん（後方はプレーカー）

ながっていくように、「プレーワーカーズ」では遊び場づくりを担える人材の育成や、行政や市民団体等の要望に応じた活動支援なども行っています。

取材を終えて

須永さんによると、「子どもの居場所〇〇（まるまる）」という名称には、「ここに来た子ども達が、それぞれ自分にとってちょうど良い名前を心の中でつけてほしい」という思いが込められて

いるとのこと。「この場所のように、社会には子どもが自由に過ごすことができる環境が必要だと思つ」と話す須永さん。そのような環境の中で、子どもが様々な人と関わりながら育っていくことが、互いに気にかける地域づくりにつながっていくのではないかと感じました。今後の「プレーワーカーズ」の活動や、遊び場づくりなどの活動の広がりに期待したいと思います。



▲「子どもの居場所〇〇（まるまる）」の外観

ことで、年代や障害の有無などを問わず誰もが触れ合うことができる地域づくりにつながりたい」という思いがあるとのこと。「〇〇」には発達障害のある子どもが親子で遊びにきたり、近所の高齢者が野菜を持ってきてくれたりと、幅広い年代の様々な人が訪れ、地域の子とも達と関わりをもっています。このことについて、須永さんは「実際に触れ合うことがお互いの理解につながる。子どもの時から様々な人と関わって理解し合うことが、将来的に気

自由な遊び場が各地に広がるように

子ども達が自由に楽しめる遊び場であるプレーパークは、現在、宮城県内の11市町に28か所あり、その運営主体は様々とのこと。「プレーワーカーズ」では面積や人口から各市町村に必要なプレーパークの数を割り出し、その合計値である114か所の設置を目標に掲げて活動しています。須永さんによると、「子どもが自力で来て、自力で帰ることができるということが重要であり、そのためには最低限このぐらいの数が必要だと考えている」とのこと。遊び場づくりの活動が各地に広がるように、そして、そこから年代や障害の有無などを問わず、誰もが関わりをもって暮らすことができる地域づくりにつ



▲プレーワーカーズが運営に携わっている利府町にある加瀬沼プレイパークの様子

一般社団法人プレーワーカーズ

（住所）名取市高館熊野堂字飛鳥中3
（電話）022-397-7507

子どもの居場所〇〇（まるまる）

（住所）名取市下増田丁地96-2

